

熊本県知事選挙の「自主投票」を決定

連合熊本第4回執行委員会

連合熊本は、2月14日に開催した第4回執行委員会において、3月7日告示・3月24日投開票で実施される熊本県知事選挙への対応を「自主投票」とすることを決定しました。

提案にあたり、友田孝行会長は、「連合熊本に対して推薦要請が行われた『木村敬』氏および『幸山政史』氏について、政治センター幹事会においても慎重に検討を重ねてきていただいた。いずれの予定候補者とも、連合熊本が考える労働政策の方向性や熊本県民のための県政を行うという考え方は概ね合致しており、連合熊本との連携を重視する姿勢についても評価できることから、連合熊本としての対応は『自主投票』としたい」と説明しました。

その後、山本事務局長より、①これまでの対応経過、②政治センター幹事会での論議経過、③自主投票とする理由——等について説明・提起があり、全会一致で確認されました。

また、同執行委員会では、労働組合・連合熊本にとって、また、熊本県民にとっても、新しい時代のリーダーを選択する重要な選挙となることから、連合熊本に推薦要請が行われた両予定候補者については、組合員に対して経歴・政策等を紹介していくことを確認してきました。

以上のことから、本号では、「木村敬」氏および「幸山政史」氏の経歴・政策・訴えなどについて掲載します。

木村 敬 氏



経歴

1974 (昭和49) 年 49歳

1999 (平成11) 年

東京大学法学部卒業、
自治省 (現総務省) 入省

2012 (平成24) 年7月～2016 (平成28) 年5月

熊本県庁 (地震後の政府現地対策本部員含む)

2020 (令和2) 年10月～2024 (令和6) 年1月

熊本県庁 (副知事)

熊本県政に対する私の思い 木村 敬(きむら たかし)

私は「くまもと新時代を共に創る・県民への10の約束」を掲げ、県民本位の県政を実現します。蒲島知事時代の良い点は継続し、足りなかった点・十分でなかった点は私「きむら敬」がしっかり改革・推進します。

左手に障がいを持って生まれたことを活かして、福祉を充実し、障がいの有無、国籍等の違いに関わらず、共に生きるインクルーシブな多文化共生社会を実現します。

TSMC熊本進出が賃金上昇や働きやすい雇用機会の創出などプラスの効果をもたらすように全力をあげるとともに、渋滞対策、地下水保全、排水監視などを徹底しマイナスの効果を抑えて、熊本県全体の豊かさの向上に全力を傾けます。

働きやすい職場づくりには労使一体となった動きが肝要です。各企業において労働組合がしっかりその役割を果たされることを願います。働き手世代が豊かさを実感してこそその少子化対策、人口減少への歯止めと考え、そうした企業に対する支援を強化します。

私は、県民と職員と知事の信頼関係によって、効率化と前向きな行政、財政健全化と県政発展との両立を実現します。

効率化とは、職員削減ありきでは考えません。どうしても人手が必要な業務と、業務の見直しやDX化の推進などにより担当職員を減らせる業務とを峻別してメリハリのある職員配置を行うことで、業務の幅の広がりに対応します。

教職員については、変化の激しい時代に対応した教育改革を現場目線で進め、学校の働き方改革、余計な事務仕事の削減、専門スタッフの配置拡充を進め、教師がこどもと向き合う時間を確保し、授業の質の向上を図ります。

最後に繰り返しますが、私は職員と知事の信頼関係が県政の基本と宣言します。

皆さん、「くまもと新時代、共に未来へ！」よりよい新時代の熊本県を作りましょう。

幸山 政史 氏



経歴

1965 (昭和40) 年 58歳

1989 (平成元年) 年

九州大学経済学部卒業、
日本債券信用銀行

(現あおぞら銀行) 入行

1995 (平成7) 年4月～2002 (平成14) 年9月

熊本県議会議員

2002 (平成14) 年12月～2014 (平成26) 年12月

熊本市長3期

組合員の皆様へ

幸山 政史(こうやま せいし)

連合熊本組合員の皆様、日頃から大変お世話になっております。元熊本市長の幸山政史です。私は、政治家として常に情報公開と市民(住民)参加の政治を心がけて参りました。

皆様ご承知の通り、今、TSMCの熊本進出を機に、菊陽町とその周辺地域に関連企業の進出が相次ぎ、さながら“半導体バブル”の様相を呈しています。熊本に大きなチャンスが到来していることは確かですが、その一方で、地下水の保全、交通渋滞の激化、さらには地域間格差の拡大などが懸念されています。これらの課題を乗り越え、半導体産業集積による経済波及効果を県全域、そして県民一人おひとりに届けていくことは、熊本県の大きな責務であり責任です。

今の熊本県の最低賃金は898円、全国平均の1,004円とはかなりの開きがあり、全都道府県で4番目に低い数字です。そして、雇用形態も令和3年度労働関係統計を見ますと、非正規率が15年間で3割近く増え、特に女性の非正規雇用は正規雇用を上回っています。このような状況を打破するため、私は地方自治体ではこれまであまり踏み込んでいなかった労働・雇用環境や賃金の問題に対し、県として積極的にアプローチしていきたいと考えています。このことにより、若者や子育て世代などが故郷の地で子どもを産み育てずっと住み続けられる、このような熊本県を創り上げて参ります。

私は、熊本に生まれ育ち、半世紀にわたって暮らし、活動してまいりました。故郷熊本に対する愛情は誰にも負けません。県民のための開かれた県政を実現し、半導体産業の集積をすべての県民の皆様に豊かさを実感して頂ける「より良い流れ」へと拡大し、流した汗が報われる社会を実現するため、全力を尽くして参ります。

最後になりましたが、連合熊本の益々のご繁栄と組合員各位のご健勝を心からご祈念申し上げます。

くまもと新時代、 共に未来へ

- 1. 県民の命と暮らしを守る！**
熊本地震・豪雨災害対策の経験を活かした防災力の強化と「緑の流域治水」の推進、熊本の宝である水資源の保全など、安全安心な熊本づくり
- 2. 不転軌の決意で【渋滞解消】を実行！**
世界に開かれた熊本県の更なる発展を大胆なインフラ整備で実現
熊本都市圏の交通渋滞の解消、新たな公共交通体系の構築
- 3. 安心して結婚・出産・子育てできる社会を実現！**
新時代はこども・若者がキラキラ輝く熊本づくりから
こども未来創造会議を設置し、直接対話を実行
- 4. 日本一の健康長寿社会を実現！**
人生100年時代を充実させる医療介護体制の確保と元気な地域づくり
地域の医療介護提供体制を確保し、地域共生社会を創生
- 5. 世界と伍する質の高い教育を実現！**
地域社会に貢献し、世界に羽ばたく志ある人材を育てる魅力的な学校づくり
変化の激しい時代に対応した教育改革
- 6. 「食のみやこ熊本県」の創造！**
豊かな食文化を活かした高付加価値化で、稼げる農林畜水産業を実現
後継者育成に全力を注ぎ、あらゆる施策で担い手の確保を目指す
- 7. 県内すべてにTSMC効果を波及！地域の課題・経済にコミット！**
熊本で暮らしたい人が暮らし続けられる魅力ある地域づくり
地域未来創造会議を立ち上げ45市町村と本音の対話
- 8. 熊本経済のイノベーションを実現！**
スタートアップとビジネスの国際化に挑み、豊かな暮らしを実現
くまもと版スタートアップ・エコシステムを創出
- 9. スポーツ、観光、文化芸術を戦略的に振興！**
今こそKUMAMOTOを世界に飛躍させる
スポーツ文化施設については、県が主導して議論をスタート
- 10. SDGs先進県としての責任ある「くまもと新時代」行政**
トップセールスで選ばれる熊本を実現

詳しくはHPをご覧ください→



あきらめない情熱 くまもと愛∞無限大

- 1. 被災地の復興が最優先／安心して暮らせる県土をつくる**
熊本地震や令和2年7月豪雨災害から、すべての地域と県民が復興を成し遂げるまで、一人ひとりに寄り添い、被災の経験を生かし、誰もが安心して暮らせる強靱な県土をつくります。
- 2. 半導体産業の経済効果を一人ひとりが実感／九州の真ん中から世界へ**
半導体産業集積を契機とし、未来を担う人材や地域特性等を踏まえた地場産業の育成に取り組み、県域すべてにTSMCの光を届け、熊本県と県民の可能性を切り開きます。
- 3. 交通渋滞対策は今すぐ取り組めるものと将来構想をセットで**
将来構想を検証しながら、即効性のある交通渋滞対策に今すぐ取り組み、交通権の理念を踏まえ、どこに住んでいてもストレスなく移動できる環境を整備します。
- 4. 豊かな水資源と環境を未来へ継承／日本一の農林水産業県に**
熊本が誇る水と緑、これらの豊かな自然に育まれた農林水産業、このかけがえのない財産を守り育て未来に継承します。
- 5. 若者たちの暮らしをサポート／稼げる県！子育て県！くまもと**
賃上げや雇用環境の改善に取り組む事業者への支援など、若者を中心に生活を豊かに、子育て世代への支援を充実し、人口減少や少子化を食い止めます。
- 6. 誰もが健康でいきいきと暮らせる「元気寿命日本一」を実現**
誰もが、元気にいきいきと、ずっとこの熊本に暮らしていける健康長寿のまちづくりを進めます。
- 7. 歴史文化を守りスポーツや芸術に親しみ暮らしをエンジョイ**
私たちのルーツである郷土の歴史文化を守り、スポーツや芸術を気軽に楽しみ、みんなで集いにぎわうまちづくりの実現に取り組みます。
- 8. 開かれた対話型の県政を実現**
透明性の高い信頼される県政運営を実現し、県土の隅々までの声に耳を傾け、それぞれの地域特性や住民ニーズに合わせた地域づくりを推進します。

詳しくはHPをご覧ください→

